

講義名	19 - 日本語 B (聞く) / 15 - 日本語 B 【留学生科目】			授業形態	
担当教員	福岡 寿美子	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング	

主題と概要

留学生が、外国語としての日本語の聴解と発音について学ぶ。日本語の聴解では、聞き取りの際の間違いやすい発音や文法等の基本的な練習を行う。日本語の発音では、表現したい内容を聞きやすく分かりやすい発音で話せるようになるための練習を行う。特に話しことばの発音およびオノマトベについて学ぶ。

到達目標

発音に関する聞き取りでは、留学生が発音と表記に留意し、縮約形などの話しことばが聞き取れるようになることを到達目標とする。文法に関する聞き取りでは、留学生が受身、使役、敬語等が理解できるようになることを到達目標とする。会話表現では、留学生が会話らしい表現や取りに慣れることを到達目標とする。留学生がオノマトベについて理解し、日本語の表現が豊かになることを到達目標とする。留学生が正確で自然な発音で話せるようになることを到達目標とする。留学生が十分な発音でコミュニケーションをスムーズに行えるようになることを到達目標とする。各到達目標については、小テスト、中間試験、期末試験等において、その到達度を測る。留学生が考える学習を行うようになることを到達目標とする。

提出課題

予習、復習、ワークシート等、授業中にその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各学生が提出した課題について、一人一人にチェックおよびコメントを行い、次の授業において、自々に返却をし、全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

評価の基準

期末試験（30％）、中間試験（10％）、小テスト（10％）、課題の提出（20％）、授業参加度（30％）等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

出欠は毎回とする。全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。遅刻3回で1回欠席とする。1.5分以上の遅刻は欠席となる。真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.コミュニケーションのための日本語発音レッスン. 戸田貴子 スリーエーネットワーク 3,300 9784883192953

その他

必要に応じてプリント資料を配布する。
 『日本語総まとめ11聴解』広々木仁子・松本紀子著 アスク出版
 『教師用日本語教育ハンドブック 発音』今田滋子著 国際交流基金日本語国際センター 凡人社
 『上級の力をつける聴解ストラテジー上/下』川口さち子・桐生新子・杉村和枝・根本牧・原田明子著 凡人社
 『シャドーイングで日本語発音レッスン』戸田貴子編著 スリーエーネットワーク

授業計画

- 1回：イントロダクション
授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法等
- 2回：発音に関する聞き取り、ディクテーション
- 3回：文法に関する聞き取り、他
- 4回：文法に関する聞き取り、他
- 5回：会話表現、DVD
- 6回：聴解、他
- 7回：聴解、他
- 8回：中間理解度試験の実施およびその解説
- 9回：話しことばの発音
- 10回：話しことばの発音、他
- 11回：日本語発音レッスン、他
- 12回：オノマトベ、他
- 13回：オノマトベ、他
- 14回：日本語発音レッスン、他
- 15回：総復習および期末定期試験の傾向と対策について

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各プリントに関して、語句の読みや意味調べ、内容理解等の予習を、毎回2時間行ってください。発音・聴解の復習および課題を、毎回2時間行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

日本語聴解能力を身につけ、活用することができる。
 聴解能力をつけることにより、人と円滑なコミュニケーションをとることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考